

ウィズ通信

子どもたちが安心、安全に育つ摂津の未来をめざして



絵：きむらなおこ

ウィズせつつカレッジは、男女共同参画の視点をもって社会で活躍する女性を応援することを目的に、毎年10回の連続講座を開催しています。今年度のテーマは、「子どもたちの笑顔が輝くまちづくり」でした。「子どもの権利条約」から始まり、貧困や性の多様性、性暴力など様々な問題について学びました。摂津の子どもたちの笑顔のために何ができるだろうかと受講生みんなで頭を絞り、最終回では「子どもは地域のみinnで育てる」「笑顔を生み出す教育」「子どもたちが安心して『人権、ジェンダー』について話し合える場をつくる」というアイデアが出てきました。

貧困は子どもにとって安心・安全を奪う大きな要因の一つですが、経済的な貧困だけでなく様々な困難を抱えている子どもがいます。同じ地域に住んでいてもSOSをキャッチできないことが多々あります。地域に、親以外にも話せる大人がひとりでもいれば、少しは力になれるかもしれません。子どもにとって安心できる場をつくり、子どもの声を聴ける大人になることが「子どもたちの笑顔が輝くまちづくり」につながるのではないのでしょうか。

子どもたちが安心、安全に育つ摂津の未来をめざして～ウィズせつつカレッジ 2017 の学びから

子どもの権利とは

1989年にできた「子どもの権利条約」は前文と54の条文からなり、そこに書かれている「子どもの権利」は、簡単に言うと「生きる権利」、「育つ権利」、「守られる権利」、「聴いてもらえる権利」の4つに分類されます。

子どもも大人も同じようにはかけがえのない一人の人間であり、人権を尊重されるべき存在です。しかし、子どもにはまだ、自分で決める力も責任を取る力も十分にはありません。往々にして子どもの意見は「まだ何もわかってない子どもだから」と無視されがちです。そして「よかれと思って」大人の考えを押し付けられます。しかし、「聴いてもらえる権利(=意見表明権)」は、大人に無視されることなく、ありのままの自分を受け止めてもらい、大人との対話のキャッチボールを通して、自分らしく成長する権利なのです。大人には子どもが自分らしく生き、思いやりのある大人へと成長するのを助ける責任があるのです。

子どもをエンパワーする大人になるには

子どもは身近な大人から影響を受けながら育ちます。子どもに対して大人は力を持つ存在です。その力を適切に使えば子どもの健やかな成長を支えられますが、力を濫用すれば虐待・体罰となり、子どもの力を奪ってしまう(ディスパワー)こととなります。特にジェンダーについての思い込

みや性別役割などの価値観の押しつけは、ありのままの子どもを認めないディスパワーメントと言えます。大人は、押しつけようと思っていなくても、大人の言動を見て子どもは「男の子は男らしく、女の子は女らしく」といったジェンダー規範を学び、内面化します。子どもをエンパワーできる大人になる第1歩として、自分の中のジェンダー規範に気づくことが大切です。

子どもも大人も自分らしくいられる社会を

ありのままの自分であることを保障されない社会は大人にとっても子どもにとっても生き辛い社会でしょう。

子どもたちの笑顔が輝く未来とは、セクシュアリティや価値観の多様性を受け入れ、誰もが尊重され、協力しあう社会、子どもも大人も自分らしく安心して生きることのできる社会ではないでしょうか。



ウィズせつつカレッジ 2017「子どもたちの笑顔が輝くまちづくり」(2017年6月18日～11月10日)

- 1 誰もが輝く明日のために
～世界の女の子、日本の女の子～
講師: 大崎麻子(関西学院大学客員教授、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事)
- 2 「子どもの権利」ってなんだろう?
講師: 浜田進士(子どもの権利条約総合研究所関西事務所所長)
- 3 子どもをエンパワーする大人になる
講師: 遠矢家永子(NPO法人SEAN GCR総括責任者)
- 4 子どもと大人がともに育ちあう地域
講師: 村井琢哉(山科醍醐こどものひろば理事長)
- 5 貧困の連鎖を断つ教育
講師: 前比呂子(追手門学院大学教授)
- 6 暮らしの感性を磨く教育
～家庭科を学ぶ意味～
講師: 南野忠晴(元大阪府立高校家庭科教員)
- 7 誰もがありのままに生きるために
じぶん、まる! ～性ってだれかに決められるもの?～
講師: 田中一步、近藤孝子(にじいろ i-Ru スタッフ)
- 8 子どもたちの安心・安全のために
～ポルノ、性暴力から子どもを守る～
講師: 遠矢家永子(NPO法人SEAN GCR総括責任者)
- 9 子どもたちの笑顔が輝く摂津の未来をつくる
講師: 遠矢家永子(NPO法人SEAN GCR総括責任者)
- 10 卒業式(卒業発表)



子どもたちの安心、安全を守るのは人権力！

遠矢家永子さん（NPO 法人 SEAN GCR 総括責任者）

NPO 法人 SEAN の活動

ももとは保育サポートグループとして立ち上げました。現在は、人権教育(出前授業)、保育、GCR@SEAN 認定講座*の3本柱で活動しています。他に高齢者のための街かどデイハウスも行っています。2015 年からポルノ被害の相談活動も始めました。

ポルノ被害の背景にあるもの

ポルノ被害とかAV出演強要という、何か遠い世界のこと、特別な被害と思う人が多いのですが、実は私たちの日常にあるジェンダーの問題と深くつながっています。

テレビのお笑い番組などではセクハラ的なネタで笑を取るものがたくさんあります。「茶化す」「愛情の押し売り」「ほめる」というのは、正面切って怒ったり批判したりするのがとても難しいです。「きれいだね」「色っぽいね」などと言われてセクハラだと怒れば「大人げない」「堅い」と言われてしまう。女性を性的な対象として扱う言動は日常茶飯事で、いやだと感じていても言いにくいのが現実です。

またインターネットや漫画、アニメの世界には女性の裸や女性をセックスの対象(=物)として扱う表現や、暴力的なポルノもあふれています。ポルノ的な表現が日常のひとコマになり、しかも低年齢化、過激化しています。

女性性の商品化は「イヤなら見なければいい」という問題ではありません。少女を性的に扱ってよいという考えが広まり、少女たちが自ら自分の性を売ることを奨励することにつながっています。そんな中で、だまされて AV 出演強要などの被害に遭う少女たちも出てきています。

性被害を自覚し相談すること自体、大変しんどいことですが、AV の場合はネットで映像が流布されるので自分が黙っているだけではすまなくなる。周囲にわかってしまう、家族に迷惑をかけるので、映像を消したいと現実的な必要に迫られての相談が主流です。SEAN で受けた相談件数はまだ多くはないですが、裁判になったケースもあります。

大阪府では、子どもを被写体にしたわいせつ画像を「子どもの性的虐待の記録」という新たな概念として位置づけ、その根絶を目指しています。これは被写体となる子どもを守る観点からできた考え方で、全国的に見ても先進的なものです。これがもっと広まってほしい。

人権力を高める予防教育を！

小学校から大学まで、依頼を受けてデート DV 予防の授業に出向きます。そこで教えるのは、「何をしたら DV」「何をしたらダメ」という HOW TO ではなく人権の概念です。マニュアルではなく自分が考えていくツール、「私がどう感じようかどう行動するか」を教えるのが教育。情報は提供するけれど、「選ぶのは一人一人。選んで結果(失敗も成功も)を引き受けるのもあなた自身」と伝えます。

予防教育は、誰もが被害者、加害者、第三者(傍観者)となる可能性があること、誰もどの立場にもならないようにということを念頭において実施しています。

プログラムのシナリオだけが授業ではありません。教師や SEAN のスタッフがどんな会話や行動をするか、子どもたちは見えています。大人の「在り方」全てが子ども達にとっては「教育」です。大人の私たちがジェンダー、人権の視点をしっかりと持っていなければ、それが子どもたちに伝わります。ジェンダーや男女共同参画は人権問題です。

SEAN では子どもには「人権力」、大人には「責任力」を提唱しています。この2つはセットです。子どもが人権力を身につけても大人が理解していなければ子どもの安心・安全にはつながりませんから。

* GCR@SEAN 認定講座とは

NPO 法人 SEAN が開発した 12 時間のオリジナルプログラムで GCR は Gender-Sensitive*Child Hu-Rights の略です。子どもを被害者にも加害者にもさせないよう、子どもの育ちの中のジェンダー・子どもに保障すべき権利・子どもをエンパワメントする関わりなどを学び、大人の責任力を高めます。

学びをちからに

今年のウィズせつつカレッジには、男女共同参画推進団体からもたくさんの参加がありました。地域に根差した活動をしている2つの団体のメンバーから受講した感想を聞きました。

NPO 法人キッズぽてと

子育て支援活動をしているNPO法人。阪急正雀駅前で「ちいさなおうち」を運営し、親子の居場所づくり、講座・イベント開催や一時保育の活動をしています。

■どの講義が特に印象深かったですか？

- ・ジェンダーや子どもの人権など、キッズぽてとの活動のベースとなる考え方を学ぶのに最適の講座でした。
- ・個人的には家庭科の授業がよかったです。子どもの権利条約の話は子どもに、ポルノ被害の話は母親に聞いてほしいと思いました。
- ・SNS上で、プライバシーや映像が簡単に拡散されるポルノ被害の怖さを知らない人が多い。出会い系アプリなど、大人より子どもの方がよく知っていて、危険を知らずに接触してしまうのが心配です。

■今後の活動の中でどう生かしていきますか？

- ・ちいさなおうちに来るお母さんや子どもたちに身近なことで、ジェンダーについて伝えていきたい。おもちゃの選び方ひとつでも考えますね。
- ・ちいさなおうちを卒業した子どもたちも気軽に立ち寄れるよう、発信していけたらいいと思います。ちょっと家に帰りたい時や、親に話にくい困った事がある時、ここの存在を思い出して来られるように。気軽に話せるおばちゃんがいる場所になればいいな。

つどい場「輪」

高齢者の「つどい場」やおしゃべり会などの活動をしているグループ。笑いヨガや脳トレゲームなど、摂津市内の色々な所に出張しています。

■どの講義が特に印象深かったですか？

- ・子どもの貧困の話は深刻に感じました。
- ・実際に子どもの支援活動をしている色々な人の話を聞いてよかった。
- ・子どもは多様な大人と出会うことによって生きていく力を身につけられると思いました。

■今後の活動の中でどう生かしていきますか？

- ・私たち自身は子育て現役世代ではないけれど、若い人たちの活動を応援したい。「輪」のおしゃべり会は高齢者が多いですが、もっと輪を広げていきたいと話しています。
- ・ご近所のつながりをもっと作りたいですね。子育てしながら働いている女性を近所でサポートする仕組みを作れたらいいと思う。「おかず作り過ぎたから分けたげる」とか、気軽にできることからつながっていきたい。



必要な支援がない！

だったら私達が作ろう！

摂津市立男女共同参画センター ウィズせつつは・・・

性別に関わらず、家庭、学校、職場、地域などで、一人ひとりが個人として尊重され、対等な関係を築き、共に責任を担う男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設です。

性別による固定的な意識を見直し、女性の自立と社会参画を推進します。また、市民の活動やネットワークづくりを応援します。



「ウィズ通信」は、年に2回、発行します。

編集・発行

摂津市立男女共同参画センター ウィズせつつ

〒566-0021 摂津市南千里丘5-35 摂津市立コミュニティプラザ1階

TEL: 06-4860-7112 FAX: 06-4860-7113

URL: <http://www.with-settsu.jp> / e-mail: danjyo@with-settsu.jp

●開館時間：月・木・金・土・日曜日 午前9時30分～午後5時
火曜日のみ 午前9時30分～午後9時

●休館日：水曜日・祝日・年末年始

2018年1月発行